

第26期第4回横浜市児童福祉審議会 会議録	
日 時	平成20年10月2日(木) 14時から16時まで
開催場所	関内中央ビル 10階大会議室
出席委員	齋藤委員、新納委員、小玉委員、加藤委員、小松崎委員、辻委員、安西委員、鈴木委員 生川委員、米田委員、松原委員、小塚委員、山崎委員、四方委員、飯田委員、深野委員
欠席委員	伊達委員、増田委員、山本委員、徳増委員
開催形態	公開(傍聴者1人・報道0人)
議 題	<p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各部会の審議報告 2 児童相談所一時保護所外部評価モデル実施について 3 横浜市こどもの社会的養護グランドデザイン検討について 4 新待機児童ゼロ作戦に基づく保育等のニーズ調査実施について 5 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 神奈川県青少年保護育成条例の一部を改正する条例案の概要について (2) 平成20年度、里親研修の企画・実施・評価検討委員会の概要について <p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会全体で子育てを支える気運の醸成について
決定事項	なし
議 事	<p>【報告】</p> <p>1 各部会の活動報告について 各部会の審議内容について報告される。</p> <p>(加藤委員) 児童部会の措置延長の審議について、年間の件数とその理由は何か。</p> <p>(松原委員) 障害者のグループホームに入居が決定してから入居するまでに時間がかかるケースなど。</p> <p>(事務局) 年間で数件程度。</p> <p>(松原委員) 障害児部会の提言にある「スクールソーシャルワーカー」は、どのような人材を想定しているのか。</p> <p>(飯田委員) 学校、教員とは別の位置づけで動く人材が望ましい。</p> <p>(松原委員) 来年4月から社団法人日本社会福祉士養成校協会で、スクールソーシャルワーカーの認定を始めるという動きが出ているので、市としても活用の検討を。</p> <p>(安西委員) 障害児部会の提言にもあるが、どこでも人材不足。人材育成の方策をきちんと考えていく必要がある。</p> <p>(小玉委員) 障害児部会の提言にあるように、周囲の理解の促進が子ども全体へのサポートにつながると思う。広報には力を入れてほしい。</p> <p>2 児童相談所一時保護所外部評価モデル実施について 事務局より報告。意見、質問なし。</p> <p>3 横浜市こどもの社会的養護グランドデザイン検討について 事務局より報告。意見、質問なし。</p>

4 新待機児童ゼロ作戦に基づく保育等のニーズ調査実施について

事務局より報告

(山崎委員)

保育園の待機児童の数は。

(事務局)

20年4月で707人。

(山崎委員)

入園は0歳からできるのか。利用時間は何時までか。発熱した場合はすぐに迎えに行かなければならないのか。

(事務局)

生後57日目から入園可能な園もある。

利用時間は、7時半から18時半を基本としていて、民間園では延長保育を実施しているところもある。公立園でも、時間外サービス、延長サービスを行っている園もある。

発熱した場合については、各保育所で、目安を決めて保護者に連絡している。

(山崎委員)

未就学児、就学時の調査は、放課後児童クラブの利用に関する調査になるのか。

(事務局)

小学校入学後のお子さんに関しては、放課後児童クラブの利用意向を確認する。

(山崎委員)

父親が送迎をしている場合もあるので、もう少し利用時間を延長してもらえると楽になると思う。

5 その他

(1) 神奈川県青少年育成条例を改正する条例について

事務局より報告。意見、質問なし。

(2) 里親研修の企画実施

事務局より報告。意見、質問なし。

【審議事項】

1 社会全体で子育てを支える気運の情勢について

(小松崎委員)

障害児については、小さいときは地域で一緒に遊んでいるが、学校に行くようになるとかわりがなくなってしまう。だんだん地域から遠のいていってしまう。小さい頃からずっと一緒に活動することが理解につながると思っている。

(飯田委員)

他の親御さんに気を使って、地域に出にくくなっていくという事情もある。

障害特性を理解して預かってくれる場所も、まだ少ない。

いろいろな事情が絡んで地域に溶け込みにくくなっている。

(小松崎委員)

子ども同士では、溶け込んでうまくいっている。

子どものいいところを探して、伸ばしてあげるとというのが子育て支援に関わる人の責任であると思う。

今、学校にも軽度障害の子どもが増えている。関係者が理解することが大事。先生をはじめとして研修を徹底して実施してほしい。

(鈴木委員)

障害児については、保育園でも毎年増えている。当然、受け入れる学校も増えているが、将来、大人になったときどうなるのかという部分は立ち遅れていると感じている。

療育センターについては、指定管理者制度できちんとした療育ができるのか。

子育て拠点の設置場所については、人が集まりやすいという点ではなく、安全性を重視してもらいたい。

(米田委員)

子育て拠点については、ベビーカーを押していける範囲にあって、もし、自分と雰囲気合わなければ別の拠点にいけるという、「選べる」ことも大事なので、できるだけ数を増やして欲しい。

人材については、気軽に話せる身近な人がいることが大事。行政の窓口は、敷居が高い。相談したら重大なケースにされてしまうのではと思って自分でなんとかしようとしているうちに追い詰められてしまうこともある。身近で気軽に行ける場所というのが大事。

専門家でないとかかわれない、となると人任せになってしまう部分もある。近所に住む一般の人でも、できることはある、ということを考えていけば、地域のつながりもつくれると思う。

(辻委員)

母親自身が自己肯定感を持ってなかったり、不安感を抱いている人が多いので、何かすごく重要なことを教えたり、正論を伝えていくのではなく、「いいんだよ、頑張ってるいるね」というひと言を言ってくれるような地域の人が必要だと感じている。

(四方委員)

誰もが立ち寄れて気楽に相談できるところが、ずっとあることが大事。しかもそういう場所がたくさんあればよい。

障害の話題がでたが、統計的にも子どもたちの発達が遅れている。発達障害ということではなく、親子関係の中で育つためのエネルギーをもらってこなかった子どもが増えたのではないかと思っている。

子育て支援をすると、母親がますます何もやらなくなるという意見もあるが、核家族化、地域社会の希薄化の中では、子育て支援はやらざるを得ないことである。

一番困っているのは、ひとり親家庭だと思っている。次世代にも影響するものがあるので、この審議会の中でも支援について考えていただきたい。

(深野委員)

一般の子育て支援、障害児支援、児童相談所での在宅支援、親の養育のないところの支援がリンクしていかなければならない時期にきていると思う。この審議会の中で支援の乗り入れについて情報交換できるとよい。

相談を受けたり、幼稚園に出向いたりしていると、自分が子育てをしていた時代に比べて、子どもの発達が遅れてきていると感じている。幼稚園に見学に行ったが、園児のエネルギーを余り感じられないこともある。子どもが育っていく環境を見つめ直さなければならない。

障害児部会が、いろいろなところと情報交換できる部会になってくれるとよい。

(小坏委員)

育児サロンに通うことが「良い母親の証し」という雰囲気もあって、本当に支援の必要な人が行きづらくなってしまうこともある。拠点を作ることも大事だが、運営する方が上手にかかわってくれるとよい。

居場所のなくなった子のシェルター運営に関わっている。18～19歳で発達障害の問題を抱えていると思われるが、何も支援されてこなかったという子どももいる。

専門的な能力をみんなが持つ必要はないが、保育園、幼稚園、学校の先生、地域の子育て支援の核になる人たち等が発達障害について、少しでも知っていれば、支援につなげることもできたのではと思った。専門性を高めることも大事だが、初歩的な知識を広げていくことも大切だと思う。

離婚の問題を抱えていたり、DVや家庭内暴力の問題を抱えている、などの家庭は、支援拠点やサポートシステムを利用する一歩を踏み出すのが非常に難しいと思う。

	<p>今のほとんどの制度は、親御さんが一步踏み出さないと使えないので、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」のような外から手を差し伸べるような仕組みが進んでいくとよい。</p> <p>(生川委員)</p> <p>自分が子育てをしていた時期には、拠点のようなものはなかったもので、近所の人に声をかけてもらうことが、役立った。今は、近所づきあいも薄くなってきていて、声をかけにくくなっていると思う。「いいんじゃないの。あなたのやりたいようにやればいいのかよ」というひと言だけで助かることもある。</p> <p>子育て拠点を利用できるのは、やはり一部の人に限られてしまう。そこに入るためには、誰か連れて行ってくれるような人がいるとよい</p> <p>中高生の居場所があまりないので、居場所づくりを進めてほしい。</p> <p>(新納委員)</p> <p>軽度発達障害というのは、医師でもなかなか診断が難しいし、大きくなってわかる子も多い。専門的な知識は必要ないが、心配だなと思うことが大事。そう思うことで、より専門的な支援につなげていくことができる。</p>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> (1) 委員名簿 (2) 事務局職員名簿 (3) 横浜市児童福祉審議会条例 (4) 横浜市児童福祉審議会運営要綱 (5) 里親部会審議報告 (6) 保育部会審議報告 (7) 児童部会審議報告 (8) 障害児部会審議報告 (9) 第26期横浜市児童福祉審議会障害児部会報告書 (10) 児童相談所一時保護所外部評価モデル実施について (11) 横浜市こどもの社会的養護グランドデザイン検討概要 (12) 横浜市こどもの社会的養護グランドデザイン報告書 (13) 新待機児童ゼロ作戦に基づく保育等のニーズ調査実施について (14) 神奈川県青少年保護育成条例の一部を改正する条例案の概要 (15) 「平成20年度里親研修の企画・実施・評価検討委員会」概要 (16) 社会全体で子育てを支える気運の醸成について (17) 子育て家庭応援事業ちらし
特記事項	なし